

＜紅白そろい踏み＞流れの下流でホソバイヌタデの紅い花が咲き出しこれでタデの紅白が揃いました。実は2週間ほど前から流れが池に注ぎこむあたりにシロバナサクラタデがスッキリと立ち上がり白い花を付け出していたのです。

ところでタデと名が付けば「蓼食う虫も好き好き」という諺(注)になるほど辛いのかと思っていましたが、イヌタデはそうでなく薬味にもなりません。どうやら役に立たないというので“イヌ”が付いたようです。ただ、“アカノマンマ”という別名があるように紅いご飯に見立てて子供たちがままごとに使ってきた可愛らしい植物でもあります。



＜ホソバイヌタデ＞

＜注＞諺の“蓼”はヤナギタデのようです。この葉をすり下ろして酢でのばしたものが“蓼酢”でアユの塩焼きなどの薬味とします。

＜水草の恵み＞ハスは蓮根や蓮の実として最もよく食べられている水草ですね。その次は中華料理の食材とか年初めの縁起ものとして使うクワイでしょうか。ヒシの実も貴重な食料として沢山食べられてきたようです。ただ絶滅危惧種となってしまった今では口にする機会もほとんどありません。8月の初めに白い花を咲かせているところを紹介しましたが、浮き草をひっくり返してみると2ヶ月経った今では立派な実の成っていることが分かります。随分昔のことですが茹でたヒシの実を食べたことがあります、味が栗と似ていたような記憶が残っています。



＜シロバナサクラタデ＞

クワイについても6月の下旬に紹介し、秋口には花が見られそうだと述べました。しかし残念ながら枯れそうなほどに元気がありません。復活を念じて、SHCに隣接する田んぼの脇



＜クワイの花＞

で見つけたクワイの花を載せました。花びらが珍しく三つの白い花が花茎に沿って次々に咲き上がっていきます。花が終わると表面のトゲトゲした緑色の丸い実が付き、秋が過ぎてもそのままです。



＜ヒシの実＞

＜バッタのオアシス＞そういえばすっかり秋の気配で、ビオ

トープでもコオロギなどの虫の声がよく聞こえるようになりました。草陰で鳴く虫たちの姿はなかなか見られませんが、トンボに代わってバッタたちをあちこちで目にするようになりました。右の写真ではシソの茎にるのがツチイナゴで、右下方の葉に見えるのがオンブバッタです。トノサマバッタ、ショウリウバッタなどもよく見かけます。餌となる植物が豊富なですね。(文と写真： 松本正勝)



＜ツチイナゴとオンブバッタ＞